

人が集まる木の住まい

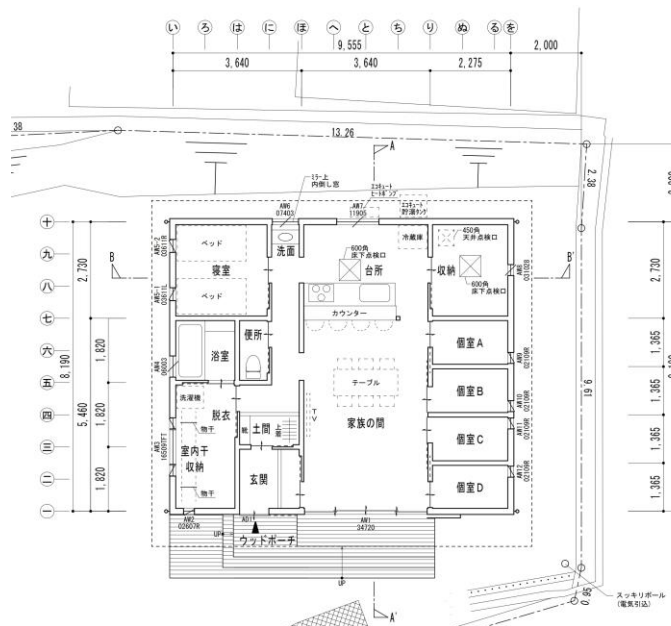
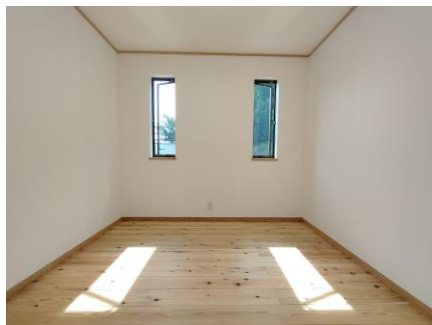


築70年を超える自宅に住まう農業を営む御主人と奥様、祖母、そして4人の子どもたち。昔ながらの間取りで使いにくいと、全面改修の依頼があった。台所が家の中心から離れた位置にあり、家事をしているとどうしても家族と距離ができてしまう。家族と共に過ごしたい奥様は、居間と台所が接する間取りにしたいとのこと。子どもたちは大きくなり、夫妻の手を離れつつある。老後を見据え、しかしながら家族と一緒に過ごせる住まいをご希望であった。打合せを進める途中で、先代からの思い出が詰まる自宅はそのままにして引き続き祖母が住み、所有していた隣接する土地に新居を建てることとなった。長年空き地だったそこは近隣の子どもたちの遊び場となっていた思い出のある場所。『家を建てても近所の人たちが集える場にした』それが夫妻のご要望であった。



玄関と家族の間の大きな掃出し窓には、ウッドデッキアプローチが続いている。子どもたちも、訪ねてきた近所の方も、インターホンを押すより先に掃出し窓へ向かって「ただいま!」「こんにちは」と呼びかける。在宅時は窓を開け放っている。家族の間でくつろいでいると、通りすぎる人と目が合うことも。「プライバシーも何もあったものじゃない。けれど、またそれもいいのよ」と奥様は朗らかに笑う。自然豊かな土地柄、ゆったりとした時間が流れている。

この木の住まいには寝室を除いて、居室は4部屋ある。家族の間と呼ぶ居間に面し、一畳より少しだけ広い個室。家族の気配を感じられるよう、みんな近くにいたい。でも、子どもたちが好きに過ごせる場所も作ってあげたい。その条件は絶対に譲れないとした奥様こだわりの間取り。ふだんは開け放ち、扉を閉めると子どもたち各自のプライベートスペースになる。思い思いに過ごせる空間が出来上がった。決して広くはない造りだが、照明器具や吊り下げ収納などそれぞれが工夫して、楽しんでレイアウトしているようだ。あまり一般的ではないだろう間取りとなったが、これからも変わらず、これまで以上に家族仲良く過ごしてほしいと思う。



- 設計概要
- 構造：木造平屋
- 敷地面積：326.15㎡
- 延床面積：78.26㎡
- 竣工：2023年5月
- 外部仕上げ
- 屋根＝ガルバリウム鋼板
- 外壁＝杉羽目板張
- 内部仕上げ
- 天井＝ビオフリース+杉羽目板張
- 壁＝ビオフリース
- 床＝杉無垢フローリング張